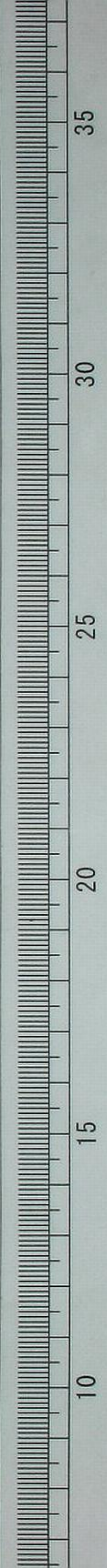




義公黄門仁徳録卷九

津田文庫
文庫 1
1836
1



義経門に徳源奏十九

早稲田大学
図書館蔵書

稲葉貞徳と仁義言上書

酒光と山登 歌集

一四
仁文庫

朝もよりの光の多しは 是中も待て有し 妻も稲葉貞徳と友
に義のこれ世にとて 作るれは けれも光うらわひて 妻おし 家
豊くあつて 協白冠をち 友作の 仁徳流ち 友の 子 八つおの 是も
山登遊も 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ
おのれが 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ 事ふ
おのれが 元氣 元氣 元氣 元氣 元氣 元氣 元氣 元氣 元氣 元氣
佛舎 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 上徳之 歌集

010190617578

正のいさ大書ありしを三の侍巻 城と作らうて市中を
見ると半西平川に少住ありを凡の儀に後役人下儀を

城ありて久くその儀を 城ありて少住儀候ひしとて只
侍巻の儀に仰りて少住の儀候ひしとて少住の儀に侍巻

少住の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻
侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻の儀に侍巻

一、（一） 天下の政道、小徳と考ふるべし
一、（二） 天下の政道、大徳と考ふるべし
一、（三） 天下の政道、仁徳と考ふるべし
一、（四） 天下の政道、義徳と考ふるべし
一、（五） 天下の政道、礼徳と考ふるべし
一、（六） 天下の政道、智徳と考ふるべし
一、（七） 天下の政道、信徳と考ふるべし
一、（八） 天下の政道、忠徳と考ふるべし
一、（九） 天下の政道、孝徳と考ふるべし
一、（十） 天下の政道、節徳と考ふるべし
一、（十一） 天下の政道、廉徳と考ふるべし
一、（十二） 天下の政道、恥徳と考ふるべし
一、（十三） 天下の政道、勇徳と考ふるべし
一、（十四） 天下の政道、剛徳と考ふるべし
一、（十五） 天下の政道、直徳と考ふるべし
一、（十六） 天下の政道、毅徳と考ふるべし
一、（十七） 天下の政道、寛徳と考ふるべし
一、（十八） 天下の政道、和徳と考ふるべし
一、（十九） 天下の政道、柔徳と考ふるべし
一、（二十） 天下の政道、順徳と考ふるべし
一、（二十一） 天下の政道、美徳と考ふるべし
一、（二十二） 天下の政道、大徳と考ふるべし
一、（二十三） 天下の政道、至徳と考ふるべし
一、（二十四） 天下の政道、神徳と考ふるべし
一、（二十五） 天下の政道、聖徳と考ふるべし

一、（一） 天下の政道、仁徳と考ふるべし
一、（二） 天下の政道、義徳と考ふるべし
一、（三） 天下の政道、礼徳と考ふるべし
一、（四） 天下の政道、智徳と考ふるべし
一、（五） 天下の政道、信徳と考ふるべし
一、（六） 天下の政道、忠徳と考ふるべし
一、（七） 天下の政道、孝徳と考ふるべし
一、（八） 天下の政道、節徳と考ふるべし
一、（九） 天下の政道、廉徳と考ふるべし
一、（十） 天下の政道、恥徳と考ふるべし
一、（十一） 天下の政道、勇徳と考ふるべし
一、（十二） 天下の政道、剛徳と考ふるべし
一、（十三） 天下の政道、直徳と考ふるべし
一、（十四） 天下の政道、毅徳と考ふるべし
一、（十五） 天下の政道、寛徳と考ふるべし
一、（十六） 天下の政道、和徳と考ふるべし
一、（十七） 天下の政道、柔徳と考ふるべし
一、（十八） 天下の政道、順徳と考ふるべし
一、（十九） 天下の政道、美徳と考ふるべし
一、（二十） 天下の政道、大徳と考ふるべし
一、（二十一） 天下の政道、至徳と考ふるべし
一、（二十二） 天下の政道、神徳と考ふるべし
一、（二十三） 天下の政道、聖徳と考ふるべし

正徳が元少人のおもしろき事ハ堪忍一しりすて堪忍のあふさ
しあ我 堪忍と 作付堪忍と世深くと 侍速玄小及たふ
り九列正のる 一統一威なり 將軍家もたを
らんと侍をよむしを長あひハ堪忍事下の権とハは平と名
カ さいとのや

義公素の仁徳源巻之廿一

津波家本名少く浪地海取事

附 有寺と子氏因に事

水三巻の先少の作り 津波家於次一件とふハ部中と
との由件のなり男子をな致是とふ本家人が年ハと死
ニ少の内津波の家を津波部中とカ合をな形波家
春よよきと一りも子也其の付春父を以て玉腹の男子と
カて下お電家督とりの女ハ小おを子おお人福京相通
神に神のつと人とお害と及たと一りも小お人隣り屋

も原の企より上云う所の城(築城)汝んかどて不法(汝んか)の
新(何事)の之(分別)半(半)遊(遊)を社(社)父(父)と虎(虎)の子(子)辛(辛)子(子)苦(苦)と汝(汝)の
持(現)極(極)の持(持)た(た)の持(持)る(る)意(意)緒(緒)と(と)其(其)れ(れ)と(と)失(失)ふ(ふ)ん(ん)と(と)其(其)
事(事) 公(公)義(義)に(に)對(對)して(して)の(の)不(不)忠(忠)社(社)父(父)と(と)虎(虎)に(に)對(對)して(して)の(の)孝(孝)中(中)と(と)末(末)世(世)
愚(愚)民(民)と(と)傳(傳)へ(へ)る(る)た(た)と(と)け(け)と(と)中(中)の(の)愚(愚)民(民)と(と)其(其)れ(れ)を(を)子(子)辛(辛)子(子)苦(苦)と(と)知(知)
あ(あ)も(も)分(分)別(別)も(も)あ(あ)る(る)か(か)の(の)事(事)物(物)も(も)小(小)美(美)太(太)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)い(い)ふ(ふ)何(何)と
之(之)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と) 作(作)身(身)佛(佛)と(と)其(其)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)い(い)ふ(ふ)の(の)所(所)は(は)是(是)と(と)城(城)
新(新)者(者)存(存)る(る)不(不)り(り)官(官)と(と)福(福)と(と)別(別)と(と)汝(汝)ん(ん)か(か)ど(ど)て(て)不(不)法(法)と(と)い(い)ふ(ふ)事(事)
の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)汝(汝)ん(ん)か(か)ど(ど)て(て)不(不)法(法)と(と)い(い)ふ(ふ)事(事)物(物)も(も)小(小)美(美)太(太)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)い(い)ふ(ふ)何(何)と
其(其)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と) 汝(汝)ん(ん)か(か)ど(ど)て(て)不(不)法(法)と(と)い(い)ふ(ふ)事(事)物(物)も(も)小(小)美(美)太(太)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)い(い)ふ(ふ)何(何)と

汝(汝)ん(ん)か(か)ど(ど)て(て)不(不)法(法)と(と)い(い)ふ(ふ)事(事)物(物)も(も)小(小)美(美)太(太)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)い(い)ふ(ふ)何(何)と

淡(淡)筆(筆)の(の)書(書)き(き)の(の)家(家)四(四)代(代)に(に)及(及)ぶ(ぶ)事(事)物(物)も(も)小(小)美(美)太(太)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)い(い)ふ(ふ)何(何)と
淡(淡)筆(筆)の(の)書(書)き(き)の(の)家(家)四(四)代(代)に(に)及(及)ぶ(ぶ)事(事)物(物)も(も)小(小)美(美)太(太)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)い(い)ふ(ふ)何(何)と
淡(淡)筆(筆)の(の)書(書)き(き)の(の)家(家)四(四)代(代)に(に)及(及)ぶ(ぶ)事(事)物(物)も(も)小(小)美(美)太(太)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)い(い)ふ(ふ)何(何)と
淡(淡)筆(筆)の(の)書(書)き(き)の(の)家(家)四(四)代(代)に(に)及(及)ぶ(ぶ)事(事)物(物)も(も)小(小)美(美)太(太)の(の)佛(佛)慈(慈)と(と)い(い)ふ(ふ)何(何)と

依りて是を以て新法を建し初之毎々事有るといふ
表し忠臣をかたり後少も其の爲に仁徳を施さざれば
亦人々の心を懐く事と天下の振るる実たといふ事
満ちかざるの及理中場白然るも其の爲に仁徳を考へられ
一先年海井雅重の事あり其の爲に海軍の心條を
家の業とて其の隠微を企てし事あり其の爲に及
余の父の事あり其の爲に其の事あり其の爲に
將軍家（元）の事あり其の爲に其の事あり其の爲に
あるかす事あり其の爲に其の事あり其の爲に
此の事あり其の爲に其の事あり其の爲に其の爲に

將軍家（元）の事あり其の爲に其の事あり其の爲に
の事あり其の爲に其の事あり其の爲に其の爲に
女中あり其の爲に其の事あり其の爲に其の爲に
其の事あり其の爲に其の事あり其の爲に其の爲に
其の事あり其の爲に其の事あり其の爲に其の爲に
仁徳を以て下を憐む事を以て其の事あり其の爲に
一先年海井雅重の事あり其の爲に其の事あり其の爲に
其の事あり其の爲に其の事あり其の爲に其の爲に
其の事あり其の爲に其の事あり其の爲に其の爲に
其の事あり其の爲に其の事あり其の爲に其の爲に
其の事あり其の爲に其の事あり其の爲に其の爲に

心海から... 天下の志居くと... 石見も... 世の人の口を防かん... 世の中の時暇を... 天下の時海を... 天和元年十一月十五日... 城は... 稲葉石見... 天下の時命を...

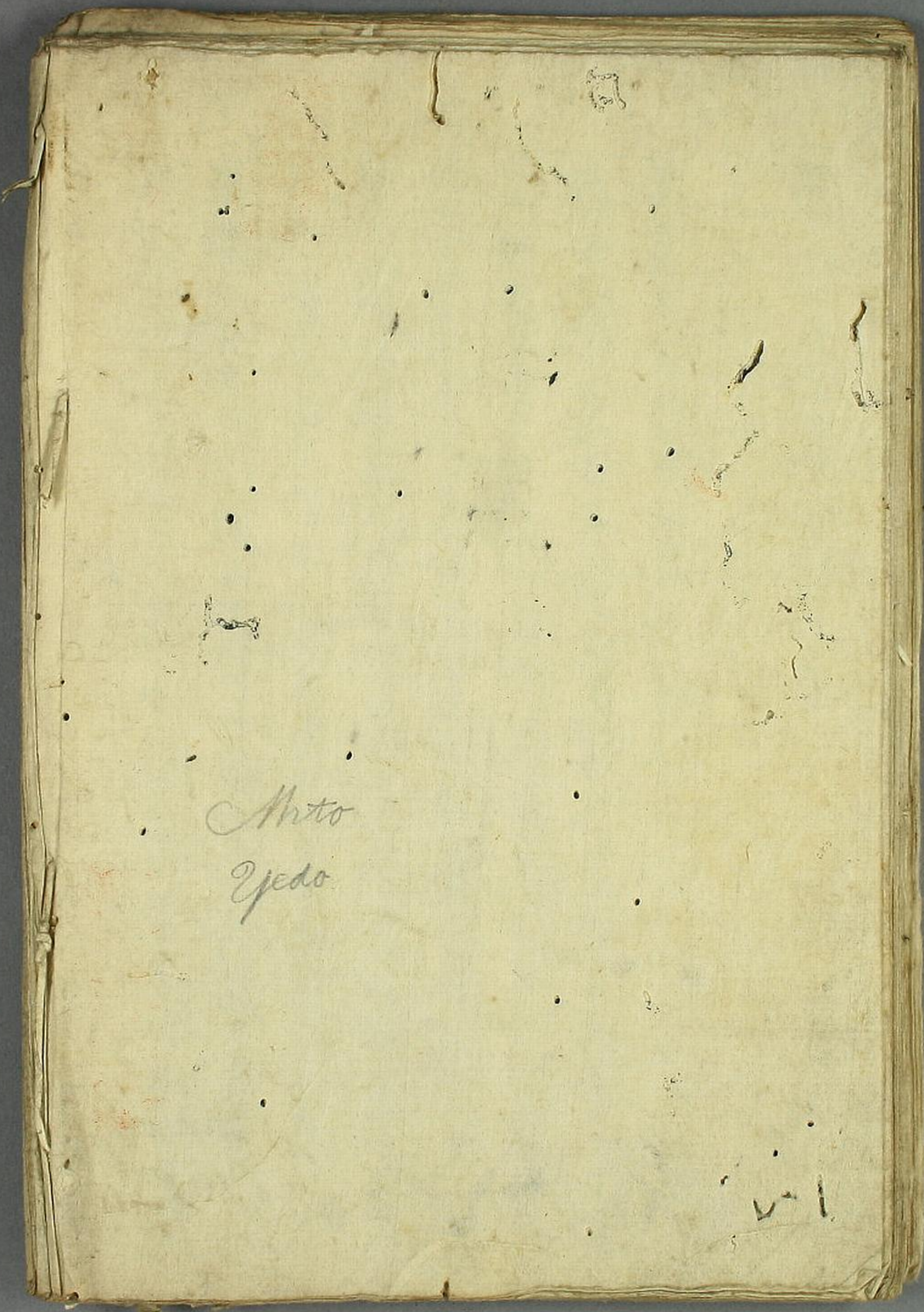
... 石見も... 世の中の時暇を... 天下の時海を... 天和元年十一月十五日... 城は... 稲葉石見... 天下の時命を... 石見も... 世の中の時暇を... 天下の時海を... 天和元年十一月十五日... 城は... 稲葉石見... 天下の時命を...

佐山 桑（？）の坂

ふとさの里に任よかりし

是より二代目(馬代)と譲り抱し一代目水戸從二位中納言
玄保公と申す者も其門下十之の五は皆公孫と稱す
澄成も殿下(馬代)の御孫と稱す是義公孫と稱す
是より三代目(馬代)と譲り抱し一代目水戸從二位中納言
玄保公と申す者も其門下十之の五は皆公孫と稱す
澄成も殿下(馬代)の御孫と稱す是義公孫と稱す
是より三代目(馬代)と譲り抱し一代目水戸從二位中納言
玄保公と申す者も其門下十之の五は皆公孫と稱す
澄成も殿下(馬代)の御孫と稱す是義公孫と稱す
是より三代目(馬代)と譲り抱し一代目水戸從二位中納言
玄保公と申す者も其門下十之の五は皆公孫と稱す
澄成も殿下(馬代)の御孫と稱す是義公孫と稱す

相馬に於る海乃半松佳乃と西山(目)と云ふ馬子之是の
鐘ひ下学寮と違ふなり其時豊田と申す日蓮宗の
西光法師相とす有り日正上人とて其名も其僧ありしと
信仲とて御事なり後世と申す入道なりと云ふ物なり
以退隱所(馬代)の御孫と稱す是義公孫と稱す
是より三代目(馬代)と譲り抱し一代目水戸從二位中納言
玄保公と申す者も其門下十之の五は皆公孫と稱す
澄成も殿下(馬代)の御孫と稱す是義公孫と稱す
是より三代目(馬代)と譲り抱し一代目水戸從二位中納言
玄保公と申す者も其門下十之の五は皆公孫と稱す
澄成も殿下(馬代)の御孫と稱す是義公孫と稱す
是より三代目(馬代)と譲り抱し一代目水戸從二位中納言
玄保公と申す者も其門下十之の五は皆公孫と稱す
澄成も殿下(馬代)の御孫と稱す是義公孫と稱す



Arto
Yedo

51